

実は 川口市は 水害に強いまち なんです!!

12年間で約150億円をかけ40カ所を整備

川口市は北東部の一部に台地があるほかは低地が市域の大半を占めている地形のため、古くから多くの水害に悩まされ続け、甚大な被害に見舞われることもありました。そのため、本市では安全・安心な市民生活を目指し、日常生活では見えない部分にも多くの予算を投入し、平成25年度から順次調節池や雨水貯留施設(地下貯留施設・プラスチック製貯留槽)を整備するなど、さまざまな水害対策に取り組んでいます。近年では、こうした取り組みが実を結び、水害の発生は大幅に減少しています。

本市の水害対策

調節池 6カ所*

河川や水路の近くに整備し、水量の調整を行うための貯水池



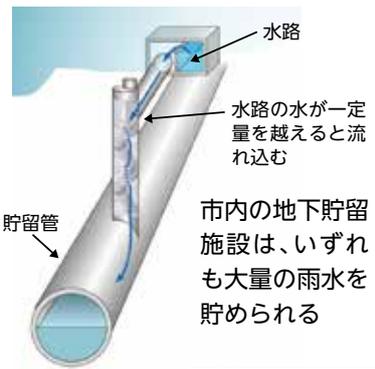
▲前野宿川調節池
前野宿川が増水した際に稼働し、25mプール約141杯分の雨水を貯められる



▲江川第3調節池(整備中)
貯留量は25mプール約31杯分

地下貯留施設 4カ所*

水害が発生しやすい地域の地下に設置し、雨水を貯める巨大な管や貯留施設



市内の地下貯留施設は、いずれも大量の雨水を貯められる

東川口貯留管の内部

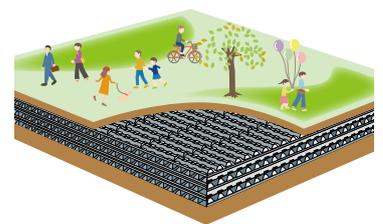


高さはなんと4.65m!

プラスチック製貯留槽 30カ所*

公園や校庭などの広場の下に設置する貯留スペース。短期間で工事が完了でき、低コスト

大雨の時に雨水を一時的に貯めて、河川や水路の氾濫を防いでいる



プラスチック製ブロックを地下に積み上げ、貯留スペースを生み出す

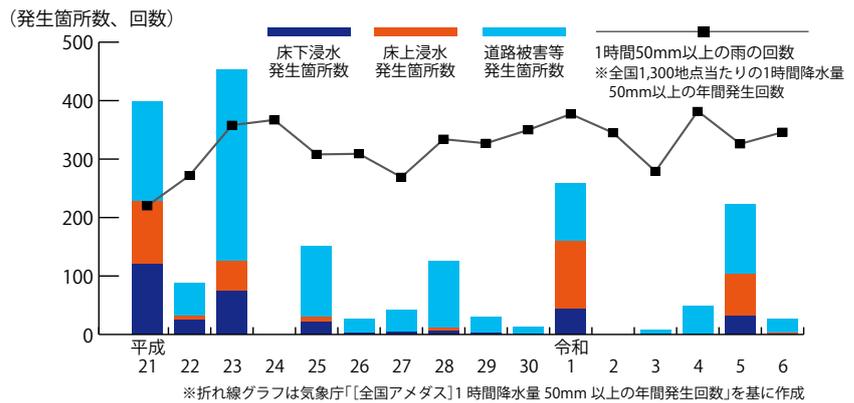


▲柳崎公園
この広場の地下にもプラスチック製ブロックが埋まっている

※整備中(令和7年度中完成予定)を含む

水害対策に取り組んだことによる効果

気象庁の統計によると、1時間に50mm以上の大雨が発生する頻度は全国的に増加傾向にありますが(右図折れ線グラフ参照)、本市の水害の件数は平成25年より前と比べて大幅に減少しています。



市内の主な整備箇所と貯留量

平成25年度以降の12年間で、河川の周囲や水害が起こりやすい地域で対策を進めた結果、現在では約84,100m³ (25mプールで約234杯分)の雨水を貯めることができるようになりました。さらに令和7年度末には整備中の施設の一部が完成することで、合計約115,500m³ (25mプールで約321杯分)を貯めることができるようになる予定です。

平成25年度以降に整備した雨水貯留施設など

※()は貯留量



これからも、「さらなる住みやすいまち」の実現に向け、引き続き積極的な水害対策を進めていきます。

問い合わせ…河川課

☎048-280-1209

FAX 048-285-2001

下水道建設課

☎048-258-4132

FAX 048-252-1033